

ちかいのうた

■ 楽曲データ

歌詞：仏典意識

楽曲：伊藤完夫 作曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M1749

■ 創作の経緯

1940年代の終わり頃、京都女子学園の礼拝用音楽として作曲された。歌詞は、蓮如上人450回遠忌の記念事業として行われた意識勤行（重誓偈の意識）。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『聖歌』浄土真宗本願寺派学校連合会 1963年

比較資料：『聖歌集 エレクトーン用』京都女子学園仏教文化研究所 1968年

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

京都女子学園における仏教讃歌による勤行の試みのなかで生まれた作品のひとつです。献華偈・献灯偈・献香偈（いずれも伊藤完夫作曲）や、敬礼文・三帰依などと組み合わせて、音楽礼拝に使用できます。

◆ 作曲家について

伊藤完夫さん（1906～2005）は、愛知県生まれの作曲家・オルガニストです。1928（昭和3）年から10年ほど、東京市（当時）の公立小学校などに勤めながら、演奏活動を行いました。ことに、1931（昭和6）年からは、理学博士の田中正平に師事し、音響学・純正調オルガン奏法・日本音楽理論を学んでいます。

戦後の1948（昭和23）年に、増山顕珠京都女子大学学長に招かれて同大学の講師をつとめ、1964（昭和39）年に教授となり、数々の仏教讃歌を作曲しました。1988（昭和63）年には、仏教伝道協会の仏教伝道功労賞を受賞しています。また、武蔵野女子大教授も歴任し、築地本願寺のオルガニストもつとめました。

◆テキストについて

『仏説無量寿経』上巻にある讃歌「重誓偈」の意訳です。

はるかな昔に仏となられた阿弥陀さまは、すべての苦悩の人びとを救うため法蔵菩薩として現れ、世に超えた四十八の願い（ご本願）をおこされました。そして心貧しく苦しみ悩む人びとを迷いの海から救い出し、南無阿弥陀仏の名号にこめられた心を伝えることができなければ、決して仏にはならないと、重ねて誓われています。（『日常勤行聖典』より）

歌う前に、重誓偈全体の意味と意訳の言葉を確認しましょう。11番まですべて歌うのが本来ですが、いくつかを抜粋して歌ってもよいでしょう。

◆歌い方について

音楽礼拝（法要）における経段です。短調ですが、歌声は明るく響くよう、心がけましょう。

4番以降は楽譜に歌詞が記載されていないことが多いので、譜割り（歌詞を音符にどのように対応させるか）をあらかじめ確認しておきましょう。

◆音源など

音源は、CD『仏教讃歌一歌集』に収録されています（歌入り・カラオケの2種類）。

また、音楽法要で用いる楽曲の選び方については、本願寺仏教音楽・儀礼研究所ニューズレター『仏教音楽』第12号に特集として掲載していますので、ご参照ください。下記URL、QRコードからご覧いただけます。

http://j-soken.jp/files/nl/nl_012.pdf

